

2023 年度生態工学会 第 1 回理事会
日 時:2023 年 5 月 31 日(水)14:20~15:30
場 所:ハイブリッド開催(東京文化会館・zoom)

【総務委員会】

2022 年度総務委員会活動報告

(1) 2022 年度総会

総会(2022 年 6 月 24 日ハイブリッド開催:東京農工大学府中キャンパスおよび zoom)では、2021 年度の活動報告、会計(監査)報告、2022 年度事業計画および予算について審議し、承認された。

(2) 理事会

1) 第 1 回理事会

2022 年 5 月 26 日に開催し、2022 年度年次総会の議案を審議し、承認された。

2) 第 2 回理事会

2022 年 10 月 27 日に開催され、各委員会活動の中間報告と今後の予定について審議・承認された。また、2022 年度年次大会の開催場所、日程が審議され、2023 年 6 月 24-25 日、高崎健康福祉大学での開催が承認された。

3) 第 3 回理事会

2023 年 2 月 22 日に開催され、2022 年度年次大会の準備状況が報告された。また、学会賞候補者の選考結果等の案件について審議、承認された。

(3) 総務委員会

総務委員会を 3 回(2022 年 5 月 26 日、10 月 27 日、2023 年 2 月 22 日)開催し、委員会活動全般につき協議した。

(4) 会員状況

会員数:2023 年 5 月 30 日現在(カッコ内は 2023 年 2 月 22 日からの増減)

終身会員 1 名(増減なし)

正会員 312 名(1 名増)

学生会員 76 名(4 名減)

合計 390 名(3 名減)

賛助会員数:5 団体 6 口(増減なし)

ダイキン工業株式会社(2 口)、ホテイ産業研究所(1 口)、

宇宙システム開発株式会社(1 口)、クリムゾンインタラクティブ(1 口)、

プライムデリカ株式会社(1 口)

会費納入状況: 34/ 126 人(約 27%)

※会費免除:37 人

(5) 審議事項

- ・第 12 期役員案について、総務委員会より提案がなされ、次世代科学社会活性化委員会からの副委員長・顧問追加の提案を加えた内容で総会に提出することとなった。
- ・伊藤科学振興会研究助成公募について、候補者があればお申込みいただくこととなった。
- ・日本工学会 令和 5 年度第 1 回会長懇談会について、船田会長にご出席いただくこととなった。
- ・2024 年度日本農学会シンポジウムテーマの募集について、候補があればご提案いただくこととなった。
- ・園芸学会百周年記念式典・記念講演会について、参加希望者があればご連絡をいただくこととなった。

(6) 報告事項

- ・下記の報告がなされた。
 - ・農業環境工学関連学会 2023 年合同大会への参加手続きを行った。
 - ・農業環境工学関連学会 2023 年合同大会の協賛についてご案内がなされた。
 - ・2023 年度 日本農業工学会賞表彰式・フェロー授賞式、受賞講演会が 5 月 13 日に開催され、当会からは渡邊博之副会長に「日本農業工学会賞 2023」、谷晃副会長、横谷香織副会長にフェローの称号が授与された。
 - ・日本工学会 令和 5 年度フェローに大政謙次名誉会員の推薦を行い、フェローに認定された。

2023 年度総務委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 学会運営

財政的にも自立し、従来にも増して効率的な運営をはかる。事務局業務を委託している株式会社アドスリーとの連携を密にし、適切で遅滞のない運営を行う。

(2) 学会活動の活性化

定例シンポジウム開催を定常化し、研究部会活動を推進するなど、学会活動の一層の活性化をはかる。

(3) 支部活動の支援

支部によるシンポジウム開催などの活動を積極的に支援し、支部活動を含めた学会活動全体の活性化に努める。

(4) 会員数の拡大

年次大会・イベント等を通じ、魅力ある学会をPRし、勧誘に努める。

【編集委員会】

2022 年度編集委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」34 巻 2 号～35 巻 1 号(2022 年 4 月、7 月、10 月、2023 年 1 月発刊)を発行した(内容:原著論文 7、短報 2、特別寄稿 1、ニュース・企画・報告 0、お知らせ、投稿規程、総ページ数 114)。なお、2023 年 4 月 27 日時点で査読中の原著論文は 1 報、著者修正中の原著論文が 1 報、受理済み原著論文が 0 報であり、および短報に関しては査読中・修正中・受理済み全て 0 報である。

また、35 巻 1 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2022 年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第 34 巻			第 35 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				1
特集論文				
原著論文	1	2	2	2
短報	1			1
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 編集委員会の実施

2022 年度は 4 回のメール会議を実施した。

(3) 学会賞の推薦

奨励賞として以下の 1 件を推薦した。

- ・34 巻 4 号 低圧環境下におけるトレニア‘ドワーフブルー’の生育と花芽形成、島田明典 ほか

論文賞は該当なしとして報告した。

2023 年度編集委員会 事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 生態工学会誌の発刊

35 巻 2 号～36 巻 1 号までの計 4 回の発刊を行う。随時、特集企画を組んで紙面の充実を図るとともに、総合論文、特集記事などの投稿依頼を積極的に行う。また、生態工学会学術賞受賞者に寄稿をお願いする。さらに、原著論文の投稿増加を目指す。

(2) 投稿規程等の整備

必要に応じて投稿規程等を実態に即した形に随時改定する。

(3) 原著論文の査読体制についての整備

必要に応じて原著論文の査読体制をより迅速なものにするための改定を行なう。

(4) 学会誌電子ジャーナルの公開

今年度も科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」において、本学会誌を電子ジャーナルとして公開する。公開に関する詳細については、利用状況を参考にしながら必要に応じて改定する。

【企画委員会】

2022 年度企画委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2022年大会(合同開催)

日 時:2022年5月22日(日)~6月3日(金)

【ハイブリッド期間】2022年5月22日(日)~27日(金)

【オンラインポスターセッション】2022年5月29日(日)~6月3日(金)

会 場:幕張メッセ、オンライン(ハイブリット方式)

主 催:日本地球惑星科学連合

特記事項:5月22日(日)にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表4件(9:00~10:30)とポスター発表5件(17:15~18:45)を実施した。さらに、5月30日(月)にオンラインポスター発表(11:00~13:00)を実施した。

(2) 2022年度生態工学会年次大会(主催)

日 時:2022年6月24日(金)~6月25日(土)

会 場:東京農工大、オンライン(一部ハイブリット)

参加数:93名

特記事項:

■ 一般セッション口頭発表 11件、ポスターセッション 21件

■ オーガナイズドセッション(ハイブリット、NPO法人蔵前バイオエネルギー)
「NPO法人の活動による地球環境とエネルギー利用の改善」 口頭発表6件

■ 一般公開特別講演会(ハイブリット)

「循環型食糧(料)生産システムの最前線と社会実装」

講演1 水産における社会実装設備と今後に向けて

玉川大学農学部 教授 増田篤稔氏

講演2 未利用資源からの昆虫生産:食材としての魅力と総合的生物生産に向けて

東京農工大学大学院生物システム応用科学府 准教授 鈴木文嗣氏

■ 次世代応援シンポジウム2022(ハイブリット、次世代科学社会活性化委員会)

「これまでの参加者らとの対話~NAGOMI会の活動報告~」

口頭発表1件、パネルディスカッション、体操、若手による討論会

■ Eco-Engineering International ONLINE-symposium 2022(ハイブリット、国際委員会)

口頭発表 6件、パネルディスカッション

- (3) 日本マイクログラフィティ応用学会 第34回学術講演会 (JASMAC-34)
日 時:2022年9月14日(水)~16(金)
会 場:名古屋市立大学
特記事項:9月15日(木)にオーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」において、
口頭発表を6件実施した。
- (4) 第66回宇宙科学技術連合講演会(共催)
日 時:2022年11月1日(火)~11月4日(金)
会 場:熊本城ホール(熊本県熊本市)
特記事項:会場からは学生を中心に非常に多くの質問があり、活気のある学会発表であつた。最後に金井宇宙飛行士から発表があり、多くの立ち見が出て終了後も記念撮影やサイン会が行われた。
- (5) 定例研究会
第1回
日 時 :5月26日(第1回理事会後)
タイトル:プライムデリカの野菜事業について
演者 :プライムデリカ株式会社 R&D推進部 玉置 功氏
- 第2回
日 時 :10月27日(第2回理事会後)
タイトル:NEDO宮古島植物工場プロジェクトのご紹介
演者 :電力中央研究所グリッドイノベーション研究本部ENIC研究部門
研究推進マネージャー 庄子和博氏

2023 年度企画委員会事業計画

下記の計画が発表された。

- (1) 日本地球惑星科学連合2023年大会(合同開催)
日 時:2023年5月21日(日)~5月26日(金)
会 場:幕張メッセ、オンライン(ハイブリット方式)
主 催:日本地球惑星科学連合
特記事項:5月21日(日)にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、現地での口頭発表とポスター発表、オンラインポスター発表を実施する。
- (2) 2023年度生態工学会年次大会(主催)
日 時:2023年6月23日(金)~6月25日(日)
会 場:高崎健康福祉大学
特記事項:6月23日にエクスカーション、24日に総会、表彰式、特別講演会、新田名誉会長追悼講演を実施する。24日、25日に口頭とポスターの研究発表、オーガナイズドセッション3件を設ける。

- (3) 農業環境工学関連学会2023年合同大会(共催)
日 時:2023年9月4日(月)~9月8日(金)
会 場:筑波大学春日地区、つくば国際会議場(茨城県つくば市)
- (4) 日本マイクログラビティ応用学会 第35回学術講演会 JASMAC-35
日 時:2023年10月25日(水)~10月27日(金)
会 場:沖縄産業支援センター(一部オンライン開催)
特記事項:オーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」を実施予定
- (5) 第67回宇宙科学技術連合講演会(共催)
日 時:2023年10月17日(火)~10月20日(金)
会 場:富山国際会議場・ANAクラウンホテル富山(富山県富山市)
特記事項:オーガナイズドセッション「宇宙で生きる! ~宇宙居住と物質循環~」を実施予定
- (6) 第2回 生態工学オンラインシンポジウム(主催)
日 時:未 定
会 場:オンライン
テーマ :食をキーワードに資源循環や生態系、脱炭素などと絡めた内容を検討する。
特記事項:全国からの聴講が期待できるため、本年度もオンラインでの開催とする。
- (7) 定例研究会
第1回定例研究会
日 時 :5月31日(第1回理事会後)
タイトル:成層圏微生物から惑星保護へ
演者 :電力中央研究所サステナブルシステム研究本部
気象・流体科学研究部門 三木健司 氏

※ 第2回以降も理事会後に実施する予定。

【表彰委員会】

2022 年度表彰委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 表彰式の実施

2022 年 6 月 24 日、東京農工大学にて開催された 2022 年度年次大会にて、以下の通り表彰した。

【特別功績賞】

北宅 善昭 氏

「宇宙閉鎖生態系での生命維持のための物質循環型植物生産システムの構築」

【生態工学会賞(学術賞)】

遠藤 良輔 氏

「多様な生体情報を利活用した資源循環型物質生産システムの開発」

【奨励賞】

奥岡 佳純 氏

「近赤外線遮光資材下で栽培したワサビ根茎の生育とアリルイソチオシアネート含有量に及ぼす透過光の影響」

劉 宇 氏

「Assessment of naked barley leaf SPAD values using RGB values under different growth stages at both the leaf and canopy levels」(異なる生育ステージにおける葉と郡落レベルで得られた裸麦葉の RGB 値に基づいた SPAD 値の推定)

泊 由紀子 氏

「Effects of Supplemental Irradiation of UV-A, Blue, and Far-red Light with Red Light on the Growth and Functional Components of Perilla frutescens」(赤色光への UV-A、青色光、遠赤色光の付加照射がアオシソの生育と機能性成分に与える影響)

山岸 鈴香 氏

「Determination of the Soluble Solid Content and Acidity by Prediction Models for Different Colored Tomato Fruits using a Small Device for Visible and Near-infrared Spectroscopy Analysis」(可視・近赤外分光用小型デバイスを用いた果皮色の異なるトマト果実用予測モデルによる可溶性固形分と酸度の決定)

(2) 被表彰者の選考

2023 年度被表彰候補者について審議し、以下の通り選考した。

【生態工学会賞(学術賞)】

中根 昌克 氏

「生態工学分野への工学的手法の応用に関する研究」

【生態工学会賞(功労賞)】

加藤 浩 氏

「生態工学会初のオンライン年次大会の盛会および委員会活動に対する功績」

【奨励賞】

島田 明典 氏

「低圧環境下におけるトレニア‘ドワーフブルー’の生育と花芽形成」

2023 年度表彰委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 表彰式の実施

2023 年 6 月 24 日の総会後に表彰式を行ない、2023 年度被表彰者を表彰する。優秀講演賞については全発表が終了した後、表彰委員会の選考を経て、表彰する。

(2) 被表彰者の募集と選考

各賞の被表彰者の募集および候補者の選考を表彰規定に基づき実施する。

【広報委員会】

2022 年度広報委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) SEE Quick(メール配信)の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに 80 回(2170 より 2249 号)情報提供を行った。また、2022 年 12 月からは、「宇宙事業推進委員会メルマガ」の配信も始まった。

(2) HP の内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、HP コンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

企画委員会の協力のもと、学会の広報活動に活用可能なリーフレットを更新し、HP 内のデータも改定した。

2023 年度広報委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) SEE Quick 配信(メール配信)の運営

円滑な SEE Quick の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。
また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) HP の内容の更新

迅速な HP の内容の更新と整備を行い、会員および一般の方への情報提供を行う。また、HP コンテンツ拡充のため、他学会 HP 等の内容を調査し、当学会 HP の充実・改善に努める。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの記載内容の変更に迅速に改訂し、HP に掲載できる体制を維持する。

【国際委員会】

2022 年度国際委員会活動報告

下記の報告がなされた。

特記事項なし。

2023 年度国際委員会事業計画

下記の計画が発表された。

特記事項なし。

【次世代科学社会活性化委員会】

2022 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告

【審議事項】

- (1) 当委員会は、男女共同参画学協会連絡会の学会参加費およびシンポジウム参加費の負担をして頂いているが、加えて、毎月当委員会が開催している NAGOMI 会で利用する zoom 費用の負担のお願いをできればしたい。負担が叶わない場合には、個人寄付についても検討頂きたい(現在、委員会コアメンバーの負担により成り立っている)。
⇒企画委員会の予算内で zoom を契約し、生態工学会の各委員会・支部にて共有で使用できるようにすることとなった。
- (2) 生態工学会 HP において NAGOMI のページ(リンク)の作成をお願いしたい。当面は、これまでの内容を記載する。今後、NAGOMI 会コラム掲載等を検討している。これらの是非について審議をお願いしたい。
⇒生態工学会の HP 内に NAGOMI 会のページを作成するべく、次世代科学社会活性化委員会・広報委員会・事務局にて検討をしていくこととなった。
- (3) 当委員会より加藤浩理事、清水美穂理事の副委員長就任を提案し、承認された。また、跡見順子先生の顧問職就任を提案し、生態工学会のご入会をもって就任を承認することとなった。

【報告事項】

下記の報告がなされた。

- (1) 継続して男女共同参画学協会連絡会の運営委員としての活動を行っている。引き続き連絡会内で男女共同参画問題洗い出し WG を宇宙生物科学会と共に進める。
- (2) 本委員会は、日本宇宙生物科学会・科学者生活委員会と協力しあい、世代を超えて話し合える場として「NAGOMI」会を、おおよそ月に 1 度継続して行っている。
- (3) 企画委員会と協力して、例年通り JpGU2023 に参加し、世代を超えての交流を行った。本年度から JpGU 主コンビーナは加藤理事が務められた。

2023 年度次世代科学社会活性化委員会事業計画

下記の計画が発表された。

- (1) 継続して男女共同参画学協会連絡会の運営委員としての活動を行う。今年度も学協会連絡会シンポジウムに参加・発表を予定している。
- (2) 本委員会は、日本宇宙生物科学会・科学者生活委員会と協力しあい、世代を超えて話し合える場として「NAGOMI」会を、おおよそ月に 1 度継続して行っている。今年度も、各開催時前に生態工学会会員各位にお知らせを配信して頂く。今後 HP を利用した展開を計画・検討する。各回のコラム等をまとめた出版物への発展を委員会内で検討中である。
- (3) 2023 生態工学会年次大会にて、「NAGOMI」会としての発表を予定している。

【産学連携委員会】

2022 年度産学連携委員会活動報告

下記の報告がなされた。

【紫外線殺菌セミナー後援】

関西支部主催のオンライン(zoom)で開催された下記の紫外線殺菌セミナーを後援した。

80 名余りの参加申込みをいただき、当日は 60 名ほど(7 割が企業)のご参加をいただいた。

- ・日時:2023 年 3 月 6 日(月)14:00~15:50
- ・受講対象:生態工学会会員、同賛助会員企業、その他(紫外線殺菌関連企業等)
- ・主催:生態工学会 関西支部、後援:生態工学会 産学連携委員会
- ・内容:
 1. 本セミナーの主旨説明(関西支部長 5分)
 2. 講演“紫外線ランプ(UV-C/254nm)を使った細菌への殺菌への応用”(50分、質疑含む)
講演者:向阪信一氏(向阪技術士事務所、元松下電工)
 3. 主催者からの話題提供、参加企業からの応用例ご紹介(各テーマ 10~15分程度)
 - ・紫外線殺菌の応用分野について
 - ・応用例ご紹介
 - ・空気清浄機への応用例のご紹介(ダイキン工業)
 - ・食品工場からの要望のご紹介(ダイキンアプライドシステムズ)
 - ・UV-CLED、植物工場用 LED のご紹介(日亜化学)
 - ・高効率紫外光反射シートのご紹介(大倉工業)
 4. まとめ、生態工学会のご紹介、終わりの挨拶(関西支部長 5分)

【コメント】

- ・今回、新しく企画した紫外線殺菌セミナーには多方面、多分野から多数の企業の方々(参加者の7割)にご参加をいただき、本テーマへの関心の高さが窺えた。
- ・本セミナーで高効率紫外光反射シートの応用先が見つかり、産学連携に至る可能性が出てきた。
- ・生態工学会の紹介を行い、初年度会費無料の PR も行なったので、新規入会に繋がればと思う。

2023 年度産学連携委員会事業計画

下記の計画が発表された。

昨年度同様に旬な話題をテーマに支部行事とリンクして、企業主体で各支部や団体をも巻き込んだ交流・情報交換の場を持つことで、産学連携を推進していきたい。(内容は未定)

【将来構想担当委員会】

2022 年度将来構想担当委員会活動報告

下記の報告がなされた。

過去 7 年間における収入と支出を内訳を整理して、財務状況の変遷を調べた。
本学会の持続的な運営に向けて意見を収集するための、理事対象のアンケート素案を作成した。

2023 年度将来構想担当委員会事業計画

下記の計画が発表された。

会員ならびに新入会員の年齢等の分布、大会以外の学会活動に関しても過去データを整理する。
本学会の持続的な運営に向けて意見を収集し、学会運営に反映させるために、理事対象のアンケートを完成させ意見収集する。

【CELSS 委員会】

2022 年度 CELSS 委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 【日本学術会議】「未来の学術振興構想」

日本学術会議が「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」を公募した。これは、以前の学術会議の大型研究計画マスタープランを代替する動きである。日本航空宇宙学会では「未来の学術振興構想」へ提案し、生態工学会は宇宙居住科学連合の一員として賛同した。タイトルは「月での持続可能な社会の構築を目指した「アカデミック・ハブ」構想による分野横断的な学術の振興」であり、その内容は地上において月面活動を実験を行った後、段階的に月面基地を拡充して行く。

学術会議へ意向表明 10/21

日本航空宇宙学会理事会へ11/23にインプット

学術会議へ提案書作成 12/16提出完了

(2) 桜井他、「月での持続可能な社会の構築を目指した「宇宙アカデミック・ハブ」構想」、宇宙環境利用シンポジウム、(1/18)

(3) 桜井他、「月での持続可能な社会構築のための「宇宙アカデミック・ハブ」構想」、第七回 重力天体(月火星)着陸探査シンポジウム、(3/2)

(4) 第2回国際宇宙産業展【終了】

日 時: 2023年2月1日(水)~3日(金)

会 場: 東京ビッグサイト南ホールにて

主 催: 日刊工業新聞

特記事項:「月の縦孔地下基地」に関する展示を行う。「月面工場(正確には、月面での工業社会)の構築」に向けて日本全体の意識を変えて、構想や計画を実現するための「概念からリアルシフト」を行う。

高市早苗 宇宙大臣も見学に来訪した。

(5) 【Moon press】第3回 月面開発フォーラム

日 時: 2022年12月8日(木)

会 場: X-NIHONBASHI TOWER

主 催: 日刊工業新聞

■ パネルディスカッション

「宇宙兄弟にみる未来ストーリー」

宇宙兄弟 編集者 株式会社コルク 小室 元気 氏

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 春山 純一 氏

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術部門きぼう利用センター

主任研究開発員 肥後 尚之 氏

モデレータ: 日刊工業新聞社 編集局科学技術部 飯田 真美子 氏

- (6) 学会HP内での「CELSS研究を一覧できる紹介ページ」の作成を検討している。学会HPへのリンクをするべく「CELSS研究を一覧できる紹介ページ」の作成を外部サイトで進めている。

2023 年度 CELSS 委員会事業計画

下記の計画が発表された。

- (1) 日本地球惑星科学連合2022年大会@幕張メッセ、2023年5/21-5/26

A-OS14 陸域海洋相互作用—惑星スケールの物質輸送

[AOS14-03] 有人宇宙探査のための物理化学的生命維持装置

★招待講演: 桜井 誠人1 (宇宙航空研究開発機構)

[AOS14-04] ANALYSIS OF THE LIFE SUPPORT SYSTEM AND QUALITY OF LIFE
ELEMENTS OF THE CURRENT HUMAN SPACE EXPLORATION

市村 周一、山敷 庸亮 (京都大学大学院総合生存学館)

[AOS14-05] 地球-月圏および火星における太陽系小天体の衝突リスク

★招待講演: 吉川 真1 (1.宇宙航空研究開発機構)

[AOS14-06] What we are learning from Biosphere 2 about Biosphere and beyond

★Invited Papers: *John Adams1 (1.University of Arizona Biosphere 2)

[AOS14-07] 宇宙海洋創出のための宇宙養殖技術

★招待講演: 遠藤 雅人1 (1.東京海洋大学)

- (2) 有人宇宙学(宇宙移住のための3つのコアコンセプト) 山敷庸亮編

Part 2 コアバイオーム

Chapter 1 宇宙海洋と宇宙養殖 遠藤雅人

Chapter 3 空気再生、水再生、廃棄物除去 桜井誠人

- (3) JAXA広報誌JAXA's No.091 P 6-7特集「科学者と読み解く「月世界」が描く夢の先」(ジュールベルヌの「月世界へ行く」を題材) 桜井誠人
- (4) 【日本学術会議】「未来の学術振興構想」「月での持続可能な社会の構築を目指した「アカデミック・ハブ」構想による分野横断的な学術の振興」
に関する発表が9月ごろにあり、採択されていた場合、具体化へ向けて外部資金申請の準備を行う。
- (5) 2023年度SPACE FOODSPHERE全体会合開催スケジュール
第1回 4月20日(木)オンライン開催←済
第2回 5月25日(木)オフラインMix開催←済
第3回 6月21日(水)オフライン限定開催(予定)
以下月一回のペース
- (6) 令和5年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム「月の縦孔での滞在開始用ベースキャンプの最小形態と展開着床機構の開発」がファイジリティスタディから本研究へ進んだ。

【宇宙事業推進担当委員会】

2022年度宇宙事業推進担当委員会活動報告

下記の報告がなされた。

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報をSEE Quickで配信した。(第3回: 2023/2/17、第4回: 2023/4/11)
- (2) 2023年次大会に向けてCELSS委員会と協力して、OS「宇宙居住ビジネスの最前線」を企画した。現時点のアジェンダは以下の通り。
 - ①10:30～10:35 「宇宙居住に関する海外動向」宮嶋宏行(国際医療福祉大学)
 - ②10:35～10:50 「縦孔・地下空洞における都市建設・閉鎖生態系システムに関する研究」庄司研(大成建設)、広崎朋史(宇宙システム開発)
 - ③10:50～11:05 「大林組の宇宙居住に関する取組み」淵田安浩、石川洋二、新村亮、田島孝敏、竹内義高(大林組)
 - ④11:05～11:20 「日揮グローバルの目指す月面社会 ～ 持続可能な月面都市 Lumarnity® ～」田中秀林、森創一、横山拓哉(日揮)
 - ⑤11:20～11:35 「ISS 実験から長期居住に向けた技術開発」永瀬睦、山本愛弥子、谷川直樹(千代田化工建設)
 - ⑥11:35～11:50 「宇宙居住を想定した環境制御技術の検討」水野恵子、黒須 聡、水野恵子、森井一之(横河電機)
 - ⑦11:50～12:00 「未来の学術」宇宙アカデミックハブについて」桜井誠人(JAXA)

2023 年度宇宙事業推進担当委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 今後の活動計画

- ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金情報等の情報収集を行い、SEE Quick で1～2カ月に1回程度定期的に配信する。
- ② CELSS 委員会と協力して企画した2023年次大会でのOS「宇宙居住ビジネスの最前線」の広報活動を行う。
- ③ 火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。
- ④ 今後の活動の参考とするため、宇宙関連の他学会の事業推進委員会の活動内容を調査する。

【各支部活動】

2022 年度各支部活動報告

下記の報告がなされた。

【関東支部】

2022 年度は活動が不十分であった。

【東海支部】

生態工学会中部支部及び日本農業気象学会東海・北陸支部の合同研究発表会をオンライン開催(2022年12月7日;Zoomミーティング)。発表件数9件。

【関西支部】

【日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウム開催】

恒例の日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムを下記のとおりオンライン(zoom)で開催。

・日時:2022年12月2日(金) 14:45～16:45

・内容:

14:45～15:45

「建築物緑化における気象環境対応技術について」

大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻 教授 山田宏之

15:45～16:45

「大阪公立大学植物工場研究センター企業コンソーシアム

最適化空調システムプロジェクトの取組み紹介

—工学系と農学系の融合した大阪公立大ならではの取組み—」

・プロジェクトの紹介

(プロジェクト幹事企業)株式会社 CKD 坂幸憲

・「植物工場用のアオジソ品種育成に向けた取組み」

大阪公立大学大学院農学研究科応用生物科学専攻 准教授 山口タ

- ・「植物の環境因子に対する生理応答評価と現場測定に基づく生育モデルの構築」

大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻 教授 木下進一

【紫外線殺菌セミナー開催】

関西支部主催で紫外線殺菌セミナーを下記のとおりに関連企業を交えてオンライン(zoom)で開催。
80名余りの参加申込みをいただき、当日は60名ほどのご参加をいただいた。

- ・日時:2023年3月6日(月)14:00~15:50
- ・受講対象:生態工学会会員、同賛助会員企業、その他(紫外線殺菌関連企業等)
- ・主催:生態工学会 関西支部、後援:生態工学会 産学連携委員会
- ・内容:
 1. 本セミナーの主旨説明(関西支部長 5分)
 2. 講演“紫外線ランプ(UV-C/254nm)を使った細菌への殺菌の応用”(50分、質疑含む)
講演者:向阪信一氏(向阪技術士事務所、元松下電工)
 3. 主催者からの話題提供、参加企業からの応用例ご紹介(各テーマ10~15分程度)
- ・紫外線殺菌の応用分野について
- ・応用例ご紹介
 - ・空気清浄機への応用例のご紹介(ダイキン工業)
 - ・食品工場からの要望のご紹介(ダイキンアプライドシステムズ)
 - ・UV-CLED、植物工場用LEDのご紹介(日亜化学)
 - ・高効率紫外光反射シートのご紹介(大倉工業)
- 4. まとめ、生態工学会のご紹介、終わりの挨拶(関西支部長 5分)

【コメント】

- ・合同シンポジウムには例年どおりのメンバーにご参加いただけた。
- ・今回、新しく企画した紫外線殺菌セミナーには多方面、多分野から多数の企業の方々(参加者の7割)にご参加をいただき、本テーマへの関心の高さが窺えた。
- ・本セミナーで高効率紫外光反射シートの応用先が見つかり、産学連携に至る可能性が出てきた。
- ・生態工学会の紹介を行い、初年度会費無料のPRも行なったので、新規入会に繋がればと思う。

【四国支部】

7月23日に農業情報学会および日本生物環境工学会と3学会合同で講演会を行った。

【九州・沖縄支部】

- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

2023年度各支部事業計画

下記の計画が発表された。

【北海道・東北支部】

引き続き北海道東北域での会員獲得と、論文投稿アップに努力します。

【関東支部】

関東支部所属の方と支部活性の方法など希望を取るところから企画を行う必要があり検討したい。

【東海支部】

生態工学会中部支部及び日本農業気象学会東海・北陸支部の合同研究発表会を開催予定（2023年11月～12月；静岡県にて現地開催又はオンライン開催）。

支部長が武田美恵会員から谷晃副会長に交代。

【関西支部】

＜合同シンポジウム開催＞

2023年度も引き続き農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムを11月下旬～12月上旬に開催を予定したい。（詳細は未定）

＜支部会員交流・情報交換＞

昨年度同様に企業主体で他の支部や団体も巻き込んだ交流・情報交換の場を持ちたい。（内容は未定）

【四国支部】

6月10日に農業情報学会および日本生物環境工学会と3学会合同で講演会を開催。

【九州・沖縄支部】

- ・他学会（近隣分野）九州支部との共同企画の検討（後援など）
- ・継続的な会員募集

2022 年度会計報告・2022 年度会計監査報告

下記のように決算が報告された。

総会には、事務局諸経費の摘要に内訳を追記した内容で提出することとなった。

2022年度生態工学会収支決算書

科 目	実績金額	摘 要（内訳）
I 収入の部		
個人会費	996,000	正会員入金120口 学生会員12口 当該年度外（正会員）16口 当該年度外（学生会員）3口
賛助会費	300,000	6口（2口1社、1口4社）
年次大会	406,000	年次大会参加費、広告料
シンポジウム等	0	
定例研究会	0	
研究部会	0	
学会誌掲載料・広告料等	999,000	学会誌掲載料、別刷り代、広告料
資料代	109,872	学術著作権協会使用料分配金など
利息	24	
雑収入	400,000	2018年度CIGR大会協賛金配当返還金40万円他
当期収入合計（A）	3,210,896	
前年度繰越金	4,251,954	
事務局開設積立金取崩	0	
収入合計（B）	7,462,850	
II 支出の部		
総会・年次大会経費	317,948	
シンポジウム等経費	0	
会誌作成費・同送料	1,270,908	
定例研究会	19,196	定例研究会費用、事務費他
研究部会	0	
広報宣伝費	0	ホームページの経費は事務局通信費等に含まれる
事務局経費	1,228,685	事務局委託費 1,083,887 通信費 56,518
関連学協会等経費	148,840	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協 同参画学協会、日本工学会、日本農学会など
理事会経費	29,000	会場費など
委員会経費	0	
表彰経費	64,064	
その他	5,800	雑費
当期活動費支出合計（C）	3,084,441	
当期活動費収支差額（A）－（C）	126,455	
事務局開設積立（D）	0	
当期支出合計（E）＝（C）＋（D）	3,084,441	
次年度繰越金（B）－（E）	4,378,409	

事務局積立金	
1990年～2022年3月末までの積立額	¥6,000,612
2022年度利息	¥102
2022年度取崩	¥0
2022年度残高	¥6,000,714

監査報告書

2022年4月1日より2023年3月31日に至る機関に於ける生態工学会の収支決算報告書を監査した結果、正当かつ妥当であることを認めます

生態工学会会計監査 吉田洋明

田澤信二



2023 年度会計予算案

下記のように予算案が報告された。

生態工学会22年度決算報告及び23年度予算案

2023. 6. 24
(単位：円)

科 目	2023年度予算案	2022年度決算	摘 要 (2022年度決算概要)
I 収入の部			
個人会費	1,100,000	996,000	正会員120口 学生会員12口 当該年度外(正会員)16口 当該年度外(学生会員)3口
賛助会費	300,000	300,000	6口(2口1社、1口4社)
年次大会	550,000	406,000	年次大会参加費、広告料
シンポジウム等	60,000	0	
定例研究会	0	0	
研究部会	0	0	
学会誌掲載料・広告料等	1,164,000	999,000	学会誌掲載料、別刷り代、広告料
資料代	100,000	109,872	学術著作権協会使用料分配金など
利息	24	24	
雑収入	0	400,000	2018年度CIGR大会協賛金配当返還金40万円他
当期収入合計(A)	3,274,024	3,210,896	
前年度繰越金	4,378,409	4,251,954	
事務所開設積立金取崩	0	0	
収入合計(B)	7,652,433	7,462,850	
II 支出の部			
総会・年次大会経費	550,000	317,948	
シンポジウム等経費	50,000	0	
会誌作成費・同送料	1,300,000	1,270,908	
定例研究会	0	19,196	定例研究会費用、事務費他
研究部会	0	0	
広報宣伝費	0	0	ホームページの経費は事務局通信費に含まれる
事務局経費	1,130,000	1,228,685	事務局委託費 1,083,887、 通信費 56,518等他
関連学協会等経費	130,000	148,840	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協同 参画学協会、日本工学会、日本農学会など
理事会経費	29,000	29,000	会場費など
委員会経費	0	0	
表彰経費	70,000	64,064	
その他雑費	0	5,800	
当期活動費支出合計(C)	3,259,000	3,084,441	
当期活動費収支差額(A) - (C)	15,024	126,455	
事務所開設積立(D)	0	0	
当期支出合計(E) = (C) + (D)	3,259,000	3,084,441	
次年度繰越金(B) - (E)	4,393,433	4,378,409	

事務所積立金	
1990年～2023年3月末までの積立額	¥6,000,714
2023年度利息	¥100
2023年度取崩	¥0
2023年度残高	¥6,000,814